

資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について(アップデート)

2025年5月12日

扶桑化学工業株式会社

FUSO CHEMICAL

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、資本コストや株価を意識した経営の実現に向け、①収益力の向上、②市場への的確な情報提供によるβ値の低減、③持続的な成長に向けた投資機会の見極めと資本コストを意識した資金調達の実施を行ってまいります。上記3点の活動を通じ、継続したROE10%以上の確保を目指してまいります。

東証からの要請内容

当社の対応

現状分析

- ・自社の資本コストや資本収益性を的確に把握
- ・その内容や市場評価に関して、取締役会で現状を分析・評価

- ・各経営指標（PBR、ROE、株主資本コスト、ROIC）の把握
- ・株主資本コストに関しては市場で期待されるリターンを踏まえ見直しを実施。

計画策定・開示

- ・改善に向けた方針や目標・計画期間、具体的な取組みを取締役会で検討・策定
- ・その内容について、現状評価とあわせて、投資者にわかりやすく開示

- ・ROE10%以上を維持
- ・経営指標、取り組み方針を開示

取組の実行

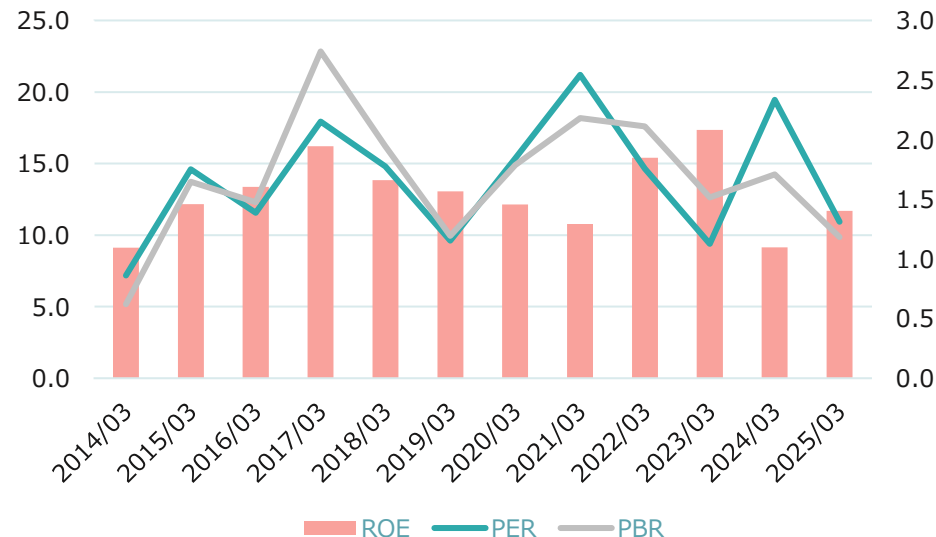
- ・計画に基づき、資本コストや株価を意識した経営を推進
- ・開示をベースとして、投資者との積極的な対話を実施

- ・更なる事業拡大を見据えた投資機会の見極め、資本コストを意識した事業推進の実施
- ・IR部門・経営層による投資家との対話の充実

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について -現状分析-



経営指標	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
株価	4,510円	3,765円	4,605円	3,440円 ※3/31終値
PBR	2.1倍	1.5倍	1.7倍	1.2倍
ROE	15.4%	17.4%	9.1%	11.7%
株主資本コスト	6.3%	6.3%	6.3%	7.5~8.5%
ROIC	14.8%	16.1%	6.9%	9.4%



資本効率

- **PBR** : 継続的に1倍超えを維持
- **ROE** : 資本コストを上回るレベルで推移
-過去最高の償却前利益でROEは大幅改善
- **株主資本コスト** : 7.5~8.5%に上昇しているとの認識
 - ①CAPM理論 (ライフサイエンス事業部:6%、電子材料事業部:8.5%)
 - ②益利回り法7.5%
- **ROIC** : 6.9%→9.4%まで回復

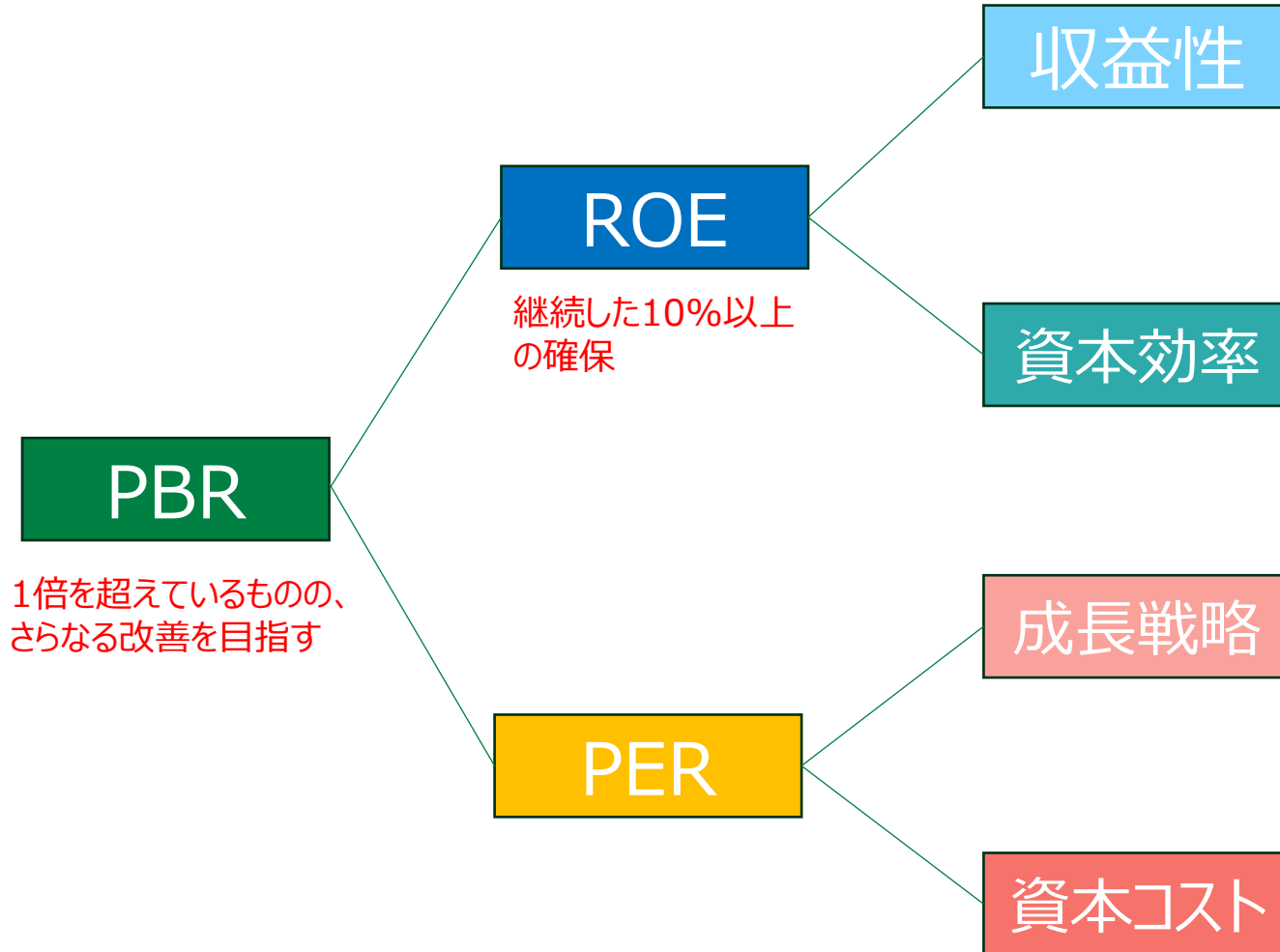
株価に関する市場評価

- **PBR** : 2.5倍を超える年度もあったが、半導体サイクルの影響を受け低迷し、1.5倍を下回る
- **PER** : コロナ前には急速なEPS成長、業界全体への中長期的期待感が増幅し、15%を超える年度もあったが、半導体に関する米中対立や不透明感もあり、業界全体が低調な評価を受けており、東証平均を下回っている。

➡ 市況や外部環境に負うところも多いが、地道な効率化を積み重ね、エクイティスプレッドの拡大を進める

➡ 参入障壁も高い為、中長期にわたっての成長期待は依然高く、設備等の先行投資を進めている。数年後を見据え、丁寧に積極的なIR活動を継続し、成長の期待度・資本市場の評価の向上に努める

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応



- ・収益の最大化
海外販売の拡大→海外比率50%達成
- ・新設備の稼働アップ
鹿島1期工事完成→認定作業が進み、フル稼働
- ・業務効率化→生産本部発足、DX化の推進

- ・株主還元方針の変更
→16期連続の配当維持/増配を実施、累進配当へ変更
- ・キャッシュアロケーション、設備投資の最適化
→新研究開発拠点設立準備を進める

- ・資本市場との建設的対話の実現
- ・海外顧客・最先端用途での取り込み
- ・成長戦略・開示情報等の情報量アップと内容の充実
- ・事業リスク・マネジメントコントロール
- ・非財務情報の積極開示
- ・経営トップのIRへの積極関与

取組み方針に関する振り返りと成果



2024年5月の開示内容

1年間の成果

1

収益性の向上 ROE・ROIC10%以上

- 半導体市場の回復局面需要増に応えられる供給体制
- 償却前営業利益の最大化
- 海外での販売機会の獲得に注力



ROE/ROIC
11.7%・9.4%
海外比率
50.6%に改善

2

市場への的確な情報提供によるβ値の低減

- 財務・非財務ともに市場が必要とする情報開示
- 投資家との対話の充実

3

持続的な成長に向けた投資機会の見極めと 資本コストを意識した資金調達の実施

- 当社製品への需要を見極め、適切なタイミングで必要な投資判断を実施
- M&Aにより他社リソースの取り込みの機会を追求
- 資本コストを意識した資金調達方法を検討し、実行

- 2024年4月 生産本部を発足
- 鹿島事業所Ⅱ期工事 2025.7完成予定
2拠点の新生産能力を最大限に活用
- 過去最高24,539百万円達成（売上比率35.3%）
- 新規顧客の開拓、販売店・既存顧客との関係強化、物量確保による操業度アップ

- 任意開示も含め積極的な情報開示
- 機関投資家との対話実績に関しては前年対比
1割アップ(年間150件以上の取材に対応)

- 資金調達、M&Aで新たな進展はなし
- 事業融合型の新研究開発拠点設立計画
→2028年稼働目標
- 継続した設備投資に関し検討中

Chemicals for Human Life
FUSO



FUSO CHEMICAL